

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束は、出来るだけしない方向でケアしたいが、転倒のリスクが高く、ご家族も絶対転倒させて欲しくない意向が強い為、家族の同意書もらい4点柵使用している。(杏1名・せせらぎ1名)外す取り組みをしたのかどうか記録が残っていなかった。	・全職員が身体拘束をしないケアを目指し、2名とも3点柵になる。	・9月の運営推進会議で問題点を説明し、柵を3点にすることの対応策や家族の希望など話し合った。10月10日～家族の同意を貰い、ベッドの高さを転落しても衝撃が少ない高さにした。10月11日～センサーマットの位置の検討をし、夜間3点柵にし様子見ている。	3ヶ月
2	33	終末期の対応は、家族と「医療的な処置を望むかどうか」「グループホームで看取る場合、家族の協力が得られるかどうか。」検討しながら何名か看取りを経験した。重度化した場合、関係者が意識の統一できるように、意思確認書が必要である。	・意思確認書を作成し、入所時から重度化した場合・終末期に向け、随時関係者の意思確認を行う。それがケアに反映される。	・9月中に意思確認書を作成した。そして、現時点の重度化した場合の意思を面会時に聴きとっている。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。